別紙３　　令和５年度　　学校関係者評価書　　作成日：９月１２日　　国分寺市立第一中学校　　校長名　榎本　圭志

教育目標：	(1) 自ら考え判断し行動できる人になろう　(2) 思いやりのある心豊かな人になろう　(3) 心身ともに健康でたくましい人になろう
目指す学校像：	「輝く未来を創造」し、国際社会に進んで貢献できる生徒が育つ学校…　○思いやりのある「豊かな心」を育み、安心して活動できる学校　○個性や能力を生かし、「確かな学力」を育むことができる学校　○心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校
目指す生徒像：	個性と創造力豊かな生徒…　○互いを尊重できる人間性豊かな生徒　○自ら進んで自己実現に向けて学び続けようとする生徒　○心身ともに健康で、生きがいを持ち自立できる生徒
目指す教師像：	○共感する姿勢をもち生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師　○創意ある教育活動の推進に意欲的に取り組むことのできる教師　○高い人権意識感覚を持ち、自ら範となり伝えることのできる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かな心の醸成	人権尊重の理念を基調とした教育を推進し、互いに認め合い、思いやりのある豊かな心を育む。	生徒主体の学校行事等を通し、学級居心地感を高め自己肯定感を育て、いじめの根絶と不登校生徒の減少に努める。	自己肯定感の育成に努め、居心地の良い学級づくりを行う。安心した集団生活を送れるよう、毎学期アセスメントを行い、結果を指導に活かす。	2		4		①努力指標と成果指標両面の向上を図るため、より一層教員と生徒の対話を重ね生徒理解に務める。 ②アセスのみに頼らず多様な視点から生徒一人一人の状況把握を推進する。	①全国学力学習状況調査や教育活動評価等など多角的な視点から見ると、生徒が安心して生活できる学校作りが行われている。 ②否定的回答の生徒のケアや寄り添った指導の充実を期待したい。 ③小学校６年生も自己肯定感が高かった、小中の接続が円滑に行われている結果だと考える。
			学校いじめ防止基本方針に基づく対応を徹底し、いじめの根絶を目指す。不登校生徒削減に向け、SCやSSWの協力を得ながら、生徒に寄り添った教育相談活動を進める。	4		3		①学校のいじめ対応に不満や不安を抱えている生徒が１割強の割合でいること。 ②全ての生徒にきめ細やかな対応を実現するため、ＳＣやＳＳＷ、その他の関係機関等との連携を強化していく。	①全ての教員が学校いじめ防止基本方針の下、いじめの根絶に向けて組織的に対応する意識が定着していることは生徒が安心して生活できる学校作りに欠かせないことだと考える。 ②教員と生徒のコミュニケーションを深め、いじめの未然防止や相談しやすい雰囲気の醸成をさらに推進してほしい。
			「特別な教科　道徳」の内容や指導法を工夫・改善し、「考える道徳」「議論する道徳」の推進し、適切な評価を実現させる。	3		4		①教員と生徒両者の肯定的な意識をバランスよく向上させていく。 ②全ての教員が議論する道徳の実現させる必要がある。	教員と生徒間で差があるが、成果指標の結果は教員が「議論する道徳」を推進している結果であると考え、肯定的に受け止めてよいのではないか。
確かな学力の定着	個性や能力を生かすわかる授業、興味・関心のわく授業の実現に努め、確かな学力の定着を図る。	各教科、領域等で言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの充実を図り、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。	授業における言語活動の推進・充実に努め、習得・活用・探究という学習活動の在り方を研究し、日常の授業改善につなげる。	2		4		①教員と生徒の意識に差があることが課題。各教科の特性や生徒の発達段階に応じた言語活動の場を設定していく。	①成果指標より、生徒は日々の授業の中で発表や話し合いの場が設定されていると感じていることが分かる。教員はこの結果を肯定的に捉えながら、多様な場面で言語活動の充実を図ってほしい。 ②授業の中で話合い活動を積み重ねることで必ず成果が上がるはず。
			GIGAスクール構想によるタブレット端末の活用を更に進め、学習の個別最適化、協働的な学習を推進し、「できた!」「わかった!」が実感できるようにさせる。	1		3		①タブレットを活用することが目的となってしまったり、ＩＣＴ機器を通しての活動場面が増える傾向が強くことで、実物に触れながら五感を研ぎ澄ます経験が少なくなってきているのではないか。両者のバランスを大切にした指導を行う必要がある。	①他校の授業と見比べると、第一中学校では多様な場面でタブレットを活用した授業を行われている。 ②効果的なタブレットの活用方法について、さらに研鑽を重ねていってほしい。
			放課後、長期休業を利用しての補習教室等の開催により、学習の遅れがちな生徒の学びの基礎作りに努める。	ー		4		①教員の働き方改革にあるように、ゆとりのある中で教員が一人一人の生徒と向き合える時間をつくっていく必要がある。	①授業が充実し、質問する必要がない生徒もいるはず。質問しないこと自体を否定的に捉える必要はないのではないか。
健やかな体の育成	体力・運動能力の向上を図り、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活が送れる力を育てる。	基本的な生活習慣と結び付けた運動の日常化を推進する。	保健体育の授業や運動部活動を通し、日常生活での意識啓発を行い、生徒の体力・運動能力の回復・向上に努める。	1		3		①学校行事との兼ね合いで、体育の授業で毎時間体力向上への取り組みを実施することが難しかった。 ②７月以降、体育や運動部活動と熱中症予防の両立を図ることが困難になってきている。	①運動会では数年振りの全校規模での開催を通して生徒や保護者が一体となりながら体力向上に資する行事となったと考える。 ②熱中症予防と体育的活動の両立に向けた学校の努力が伝わってきている。
輝く未来の創造	持続可能な社会に向け、開かれた学校づくりや愛校心や郷土愛を育み、所属感・連帯感を養うことで地域との連携や、生徒の社会貢献への意識を高める。	自校及び校区を中心にＥＳＤ（ＳＤＧｓ）を推進する。 保護者や地域と連携した多様な教育活動を行い、進んで社会に貢献できる力と態度を育てる。	教育課程に職場訪問など地域連携を位置づけるとともに、生徒の地域事業への積極的な参加を呼びかけ、ボランティア活動への社会貢献の意識高揚を図る。	ー		ー			
			開かれた学校として、地域教育力を積極的に取り入れ、保護者や地域へ、ブログ等を活用し、教育活動理解に向け、積極的に情報を発信する。	ー		4		①ＩＣＴ機器を活用した学校評価アンケートへの保護者回答率が低く、半数以下に留まっている状況である。	①質問項目の変更やリマインドメールの活用、ＰＴＡとの連携等、今後の工夫次第で学校評価への回答率は向上してくるのではないか。 ②スクリレやブログ等の活用は必要な情報を即時的に取り出すことができ、教育活動の理解に有効な手立てである。